

世界にひびけ 核兵器廃絶

市役所で
平和の折り鶴
原爆パネル展



市役所で始まった
平和の折り鶴と原爆パネル展

八幡市役所の1階エレベーター前ロビーで、原爆投下された広島・長崎に平和の折り鶴を贈るコーナーが設置されました。8月には中学生の「平和大使」が、市民の手による折り鶴を被爆地に届けます。

コーナーでは、広島・長崎での被爆状況を記した原爆パネルも紹介されています。毎年、全国から広島・長崎へ向かう平和行進の京都実行委員会が市・市議会に提出した陳情・要望に応え、パネルが購入されました。パネルは市民団体がおこなう学習・展示会にも貸し出しできますので、ご活用ください。

核兵器…政府が判断する

核兵器禁止条約締結に向けた国連の国際会議が7月まで開かれています。これは核兵器を違法化する画期的な条約です。6月市議会で①この条約の意義、②平和首長会議への参加を質問しました。

これにたいし市長は、①核兵器廃絶が望ましいが、政府が考えることと明言を避け、②平和首長会議には参加する必要性を感じないと答えました。

差別固定化 歴史に逆行

「部落差別解消推進法」シンポジウム 八幡市議団からも参加・発言



国会で、日本共産党が反対する中、強行された「部落差別解消推進法」の問題点を考えるシンポジウムが京都市内で6月に開かれました(写真)。日本共産党の仁比聡平参院議員、弁護士研究者らが報告しました。

シンポでは、同法の内容について、「同和の特別扱い」を復活させ、差別を固定化する危険な内容を含むこと、部落問題解決のための努力に逆流するなどの指摘が相次ぎました。八幡市議団から山本、巖議員が参加し、発言しました。